

野木小学校 同窓会報

第 32 号
令和 4 年 3 月

野木小学校同窓会編集部



ご挨拶

第61回卒(昭和45年)

同窓会会長(玉置) 新田 義彦

野木小学校同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また日ごろより、当会の活動にご理解、ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

今回、第三十二号の会報を発行することができました。寄稿をお引き受けくださいます。皆様に心より感謝申し上げます。

「事業」を同窓会の事業としてとり行うこととなりました。この事業は、平成二十七年から地域づくり協議会・野木を創る会の事業として行われていたものを、同窓会事業として引き継いだものです。卒業生がタイムカプセルに思い出の品などを入れ、それをみんなで校内の敷地に埋め、大人になってからまたみんなで掘り起こすというものです。このタイムカプセルはただの保管ではなく、「あの場所にみんなで埋めた」という行為自体が素敵な思い出になり、時と共に曖昧になっていく記

憶の中、再び「同じ仲間」が「同じ場所」に集まって掘り起こす。そして封を開けた瞬間、あの頃共有した時間が一瞬にして舞い戻ってくる、という素敵なセレモニーです。

この「タイムカプセル事業」は、新たに同窓会会員となる卒業生にとつて長く記憶に残るものであり、事後報告ではございますが、同窓会事業としてとり行うことを、会員の皆様方にご理解賜りたく存じます。

現在、少子化が進行し、IoT、AIが発展する中、社会も経済も、そして教育も変化を余儀なくされています。同窓会活動も「会員のために」として「母校のために」という二大原則は維持しつつ、変化に対応していかねければなりません。どうか会員の皆様方のご協力、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。最後にになりましたが、会員の皆様方のご活躍とご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。挨拶といたします。



野木は心のふるさと

野木小学校校長 赤城 俊彦

「おはようございます。」 集団登校をしている児童から元気なあいさつが聞こえてきます。友達と一緒に学ぶ楽しい学校生活の始まりです。笑顔と元気いっぱいの子どもたち、素直で温かい子どもたちに囲まれて三年目を迎えました。

同窓会の皆様には、日頃から学校運営につきましてもご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。今年もコロナ感染症対応で学校生活は様々な制限を受けてきましたが、子どもたちは何かできることはないかとアイデアを出し合い、充実した学校生活を送っています。今年度は四月から一人一台のタブレットが貸与され、学びの方法が変わりつつあります。今後は授業でさらに有効活用がなされ、オンラインで学校と家庭を結んで授業を受けたら、宿題をタブレット

でしたりする時代がそこまでやってきました。本同窓会は昭和五十九年(高橋宗一校長・倉谷静夫初代会長)に発足しました。同窓会設立準備は前年から始まっており、それはちょうどランチルールの増改築が終わり落成した年であり、TDLが開園した年でもあります。野木地区生活会議での話し合いの中で同窓会設立の声が上がり、準備委員会が何度も開催され翌年に設立されたと記録が残っています。今年で創立三十七年目を迎えたことになりました。昭和五十八年度(二十二代松宮昂校長)に増改築されたランチルームには壮大な壁画があります。その壁画は四季折々の楽しみを壮大な構図で描いてあり野木小学校の自慢のひとつです。鮮やかな色使

いで夢のような世界が描かれ、まるで夢の世界にやってきたようです。その壁画は当時在籍していた児童が、当時の松宮昂校長の指示のもとみんなで力を合わせ、花や風景の絵を描いたそうです。

昨年の夏休み、大阪から学校を訪問された方がいらつしやいました。野木小学校の卒業生で、小学生時代にランチルームの壁画に花を描いたので、懐かしくなりぜひ見たいとのことでした。早速ランチルームにご案内し壁画を見ていただきました。「この花です。この紫色の花を描きました。」

と興奮気味におつしやいました。当時のようすが鮮明に蘇り懐かしさがこみあげてこられたのでしよう。「次は自分の子どもを連れてきてもいいですか。子どもにぜひこの壁画を見せてやりたのです。」そうおつしやって帰られ、翌月ご家族全員で野木小学校に壁画を見に来られました。

世代を超えて母校に対する愛着を持ち、地元を離れても学校を心の拠り所として大切

に思っていたいただいていることをありがたく思います。長い歴史の中に脈々と受け継がれている「野木小を愛する心」をこれからも引き継ぎ、児童にとつても、保護者にとつても、教職員にとつても、さらに地域にとつても「楽しい学校づくり」を全職員が一丸となつ

旧職員からの便り

鉄は熱いうちに打て

(平成24年度〜26年度)



服部 成 男

江戸時代の米沢藩主の上杉鷹山(うえずき ようざん)(一七五一年〜一八二二年)の言葉に

為(な)せば成る
為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり
とある。

校長室に貼っておいたら、子どもたちが見に来て、次の日には覚えてそらんじてしまったことに驚かされた。

この言葉は私の小さい頃から

てめざして参ります。

「子どもは地域の宝物」とよく言われます。これからも野木の子どもの健やかな成長のために、地域の皆様、同窓会員の皆様のご協力を頂きますようにお願い申し上げます。

うことができたのだ。

「鉄は熱いうちに打て」には二つの意味があり、一つは「若いうちに物事を習得するのがよい」という意味。思考が柔軟で物事を吸収しやすい若いうちが、何かを学んだり習得したりするのによいタイミングであることを表している。まさに小学生の時期は頭が素直で吸い取り紙のように吸収していく力に感心するばかりである。

私の小学三年の頃に担任からよく「死んでも忘れるなよ」と聞かされた。その時何を覚えたのか定かではないが「死んでも忘れるなよ」の文言だけは頭にこびりついている。記憶したことは何度もよみがえって思い出として心の支えになっている。

十四年)は耐震工事のため、改修工事がなされていた。校長室はいつもオープンにして、子どもたちは休み時間になると次から次と押し寄せてきて、いろんな話を聞かせてくれた。何かを覚えることが流行っている、たまたま見つけた言葉をいとも簡単に覚えてしま

「鉄は熱いうちに打て」のもう一つの意味は「物事を行うのは、熱意があるうちに行うのがよい」の意味です。こちらは何事にもタイミングが重要であること、熱意が冷めないうちにするのがよいことを表している。



平成25年夏(皆既日食のとき)



平成24年夏
(耐震工事の為体育館にあった校長室にて)

子どもたちに「やる気と自信」をつけさせることが教師の使命だと信じている。常に良いところ見つけて褒めていく。「よく頑張っているね。熱意を感じるね。」「いいことを考えているね。素晴らしいことをやっているね。」とやることを心がけている。

いや、逆に私自身が還暦を過ぎた今だからこそ「言ってもらいたい。聞かせてもらいたい。」言葉なのかもしれないと感じる今日この頃である。

旧職員からの便り

学んで楽しい野木の里♪

(平成24年度〜29年度)

河原 奈津

野木で過ごした六年間は、私にとって、今でも大切な心の宝物です。

野木地区の皆様、お元気で過ごしてでしょうか。私は、今年度より小浜に勤務しています。毎日野木地区に沿って車を走らせ、野木小学校の校舎を眺めて通勤しています。運転しながら、野木でつながらせていただいた多くの子ども達や保護者の皆様、地域の方々、先生方のことが次々と自然に頭に浮かんでいきます。それは、とても心地よい通勤ドライブタイムです。

このような通勤が始まった春、「野木で初めて担任した子達が、今年二十歳を迎える年だなあ。」という感慨深い思いがありました。

「みんなどんな風に成長したかな。」「○○さんはどんな活躍をしているかな。」という思いの裏で、「あの頃の私は、宿題を出しすぎていたし、細かいこともだいたいぶ言っちゃったなあ。」と反省もしきりです。(どうか、よい思い出だけが残っていますように：笑)。

会った人と対話し、楽しくミッション達成した修学旅行。地域の方がゲストティーチャーのクラブ活動。有線放送を使って地域と共に取り組んだ挨拶運動…。そんな回想の時、私の口から懐かしい野木小学校の校歌が飛び出すのです。

野木小学校在職中には、子どもたちと共にたくさんのことを学ばせていただきました。お世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

そして、今日私は、野木地区に沿って車を走らせ、数々の思い出に元気をもらっています。野木はこれからも、私にとって大好きな場所であり続けます。

最後にこの場をお借りして、晴人さん、大羅さん、昂亮さん、光貴さん、麗捺さん、星那さん、祐己さん、光太郎さん、愛実さん、夏音さん、「成人、おめでとーございませう！」(写真を見て当時を懐かしんでね。)

卒業10日前・「私の一字」



秋季遠足・福井テレビ見学



毎朝の会・「ほめほめタイム」



会員からの便り

野木っ子で良かった人生

第57回卒(昭和41年)

上野木 清水 俊彦

野木小学校を卒業して、五十五年の年月が経ちました。私たち、三十六人の同級生は、全員元気で頑張っております。今の私があるのはすべて、野木っ子の素晴らしい同級生仲間に出会えたことだと思っております。常に良きライバルとなり、時には良き相談者・良き協力者であってくれました。

私は同級生以外にも多くの良き人との出会い・縁に恵まれました。それは、学校時代の役、職場での役、家庭での役、集落での役、地域や地区代表の役、またスポーツなど、色々ありました。いずれにおいても先輩後輩にいつも応援して頂きました。又、それぞれの役を通して、通常出会え

ることのない人たちと出逢い、知らない世界のことも知ることができるようになりました。色々と勉強させて頂きました。隠居生活の昨今、振り返ってみると、出会った人たちの顔、社会の中での経験、失敗談も今思えば、とても懐かしい思い出です。保護者として、子どものクラブ活動、育友会活動、運動会などの役に参加させて頂いた時は、本当に楽しかったです。子供の成長を目の当たりに見せて頂き、感激致しました。又、祖母母学級では、昔遊びの竹馬や竹とんぼの作り方や独楽回し、めんこ遊び、水鉄砲遊びなど、童心にかえって、子ども達と楽しい触れ合いをさせて頂きました。

人生には、苦しいことや嫌な思いをすることも多々ありますが、それもすべて自分にとって成長に必要な経験であります。今の生活を当たり前に思わず、色んな人に支えられて、生かされていることに気づき、すべてに感謝したいです。世界で唯一無二の私には、私ならではの役目があるはず、少しでも社会の役に立てられるよう、頑張りたいと思います。そして、未来ある野木っ子達の成長をいつも陰ながら願っております。



会員からの便り

鉄腕アトムは永遠に

第73回卒(昭和57年)

武生 福田 光宏

♪空を越えてく啦啦星の
彼方へ
行くぞくアトムくジェツ
トの限りへ
誰もが知っている(いや
今の若い世代の人達は知らな
いかもしれませんが...)こ
の曲が私の野木小学校時代の
思い出として真つ先に思い浮
かびました。

あれは小学校六年生の音楽
会の時でした。当時の上中町
内五つの小学校が一堂に会し
て歌の合唱と楽器の演奏を発
表する年に一度の
一大イベントです。



我が野木小学
校は、合唱は忘れ
ましたが演奏は「鉄
腕アトム」に決ま
りました。そして
指揮棒を振るのは、
当時ボク達六年生
の副担任でもあつ
た音楽の貴婦人・
岡本みづえ先生です。
リコーダー・ピ
アニカ・アコーデ
イオン・木琴・シ

ンバル...などの楽器があつ
たと思うのですが、ボクは当
時の鼓笛隊でもやっていた小
太鼓を担当することになりま
した。

が、しかし他の楽器は二、
三人の仲間がいるのでチョツ
としたミスはカバーしてくれ
て誤魔化せますが、小太鼓は
一人。ミスをすれば大いに目
立ちます。で、しかも曲の一
番と二番の間奏は何と小
太鼓のみのソロ演奏じゃあり
ませんか! ついに若干十一
歳のボクに人生最大のピンチ
が訪れたのです。

ボクは、音痴ではありませ
んが音楽は苦手で、不器用な
ので楽器演奏も下手でしたが
...とにかくやるしかありま
せん! 毎日毎日、家でも学
校でも鉄腕アトム小太鼓の練
習に明け暮れました。途中、
岡本先生の顔が魔女に見えたり、
魔女の振るうタクトがムチに
見えたりしましたが、教室で
は鉛筆を食卓では箸を太鼓の
バチに見立てて、血の滲むよ
うな猛特訓を重ねました。当
そして迎えた本番当日。当

時はパレオ若狭が無かったので、
舞台は一体どこだったのでもし
ようか? ライトに照らされ
た熱いステージと来賓・生徒・
保護者で埋め尽くされた満員
の観客席。その中でボクは、
空前絶後の緊張感と闘いな
がら、必死のパツチで完璧
な演奏を成し遂げる事が出来
たのです。

今振り返ると、あの時ボクは、
岡本先生のタクトに導かれて、
「諦めない気持ち・チャレン
ジ精神・全力を尽くす事」を
教えて頂きました。ちなみに
四十年経った今でも...私は
鉄腕アトムを完璧に演奏する
事が出来ません。

会員からの便り

つなげるバトン

第89回卒(平成10年)

堤 荒木 紘乃

(旧姓 森)



今回、原稿の依頼を頂き、
小学生当時を思い返してみま
した。まず真つ先に思い出さ
れたのは下校時の思い出です。
堤までの道のりは長くつらい
日もあつたはずなのに、思い
出の中の私たちはいつも爆笑
しているのです。イタドリや
野イチゴ、柿を食べながら帰
ったこと。兼田の二つの神社
に寄り道し、なかなか兼田か
ら脱出できなかつたこと。雪
遊びに夢中で帰宅するころに
は暗くなつていたこと。今思
えば危ないこともしたけれど、
とにかく楽しく刺激的な日々
でした。
学校行事では、六送会の発
表は学年末の一大イベントで
した。中でも印象強く思い出
されるのは、一年生の時の白
雪姫の劇です。担任の橋本先



生の熱い指導のもとみんなで頑張りました。私はお妃さまの役でした。一年生の時なので思い出は断片的ですが、衣装を母と一緒に選んだ事や台詞の一部は今でも覚えています。自由保育で育った私たちが、よく本格的な劇ができたな、橋本先生大変だっただろうなあと、子供を持った今なら想像できます。

私も母となり、今は子供たちが野木小学校にお世話にな

っています。子ども達と一緒に久しぶりに通学路を歩いた時は、草や土の匂い、風の音がとても懐かしく一気に童心に返りました。「ママの時はこんなことしたで。」「えええー!!!」という会話と一緒に校歌を歌えるのもうれいものです。それと同時に、私自身もたくさんの方に見守られていたんだと、改めて感じる事ができました。

社会は著しく進化、変化し、

子供たちが大人になる頃にはどうなっているのだろうかと心配になるほどです。きつと、多くの壁にぶつかったり、困難を乗り越えなければならぬということもあると思います。子ども達には、そんな時に自分を支える軸を築いていってほしいと思います。無限の可能性に向か

って、色々な事にチャレンジして多くの経験を積んでください。多くの方に支えられていくことに感謝を忘れずに。野木小学校で学んだ事や、のびのびと野木地区で育った時間、きつと未来の糧になってくれるはずです。

会員からの便り

『輝き』のその先に

第99回卒(平成20年)

中野木 武田 二葉



私達大人も、野木地区が子供達たちにとって愛着ある、心安らぐ「ふるさと」であり続けられるよう守っていききたいものです。

べながら歩いたりと・・・長い道のりでしたが、楽しい思い出ばかりでした。

印象に残っている行事といえは、カラオケ大会、音楽会、運動会、修学旅行・・・

と、キリがありません。野木小学校は、全校生徒の数が少ない分、団結力があり、どの行事も全力で取り組んでいたように思います。特にカラオケ大会は、野木小学校ならではの行事だったのではないのでしょうか。クラス一丸となって意見を出し合い、一生懸命歌やダンスの練習をした日々が思い出されます。

野木小学校を卒業してから、早いもので十四年が経ちます。ありがたいことに、今でも野木の里で共に育った幼なじみとの交流があり、会うたびに懐かしい話で盛り上がります。私にとつては、それがとても楽しい時間です。そして、私を含め、どの方も口をそろえて「あの頃は楽しかったね」と言います。大人になった今も楽しいことはたくさんあります。自

分でお金の管理ができること、車を運転して好きな場所へ行くこと、お酒が飲めること・・・しかし、小学校の六年間は、その時にしか感じられない気持ち、行事、体験がたくさんあり、今思い返すと本当に愛おしい時間だったなと感じます。雨の日も雪の日も、毎日小一時間かけて歩いた道。上級生や下級生と話したり、時には石けりや木の実を食

感じます。

私は現在、小学校からの夢であった保育士として働いています。

自然に溢れた若狭の地で、いきいきと遊ぶ子どもたちに元気をもらおう毎日です。自分がこれまで周りの方々に頂いた優しさや温かさを胸に、子どもたち一人ひとりと丁寧に関わっていきたいと思っています。

最後になりましたが、新型コロナウイルスが一日でも早く収束し、平穏な世の中になることを祈っています。



新成人からの便り

今の私と野木小の六年

第105回卒(平成26年)

玉置 井畑 晴 人

野木小学校に入学してから 十三年、卒業してから八年もの月日が経ち、私たちは新成人となった。小学校からの友達とは人生の大半をともに過

ごしてきたことになり、過ごしてきた時間の大きさを実感する。あの頃からおよそ十年、人生の節目のひとつを迎えるにあたって小学校での生活を思い返してみる。

すぐに思い浮かんだのは、友達とずっと遊んでいた裏庭のことだった。入学式のすぐ後には友達と裏庭にあるスキの練習用に作られた丘を見つけて、桜の名所として周りに紹介していた記憶がある。朝の会が始まるギリギリまでヤゴを捕まえたり、冬は一番大きな池から氷を収穫したりしていた。トノサマガエルは



ツチガエルよりもレアで、一番小さな池にはウォーターマッシュルームがたくさん生えている。ウォーターマッシュルームという言葉を知ると今でもあの頃のわくわくした気持ちがいまも再現される。そんなグラウンドや遊具以上に楽しい遊びの象徴だった裏庭には、高学年になったころの耐震工事の関係でプレハブの教室ができた。三つの池はなくなってしまうた。当時の私は現金なことになった。当時の私は現金なことに臨時の教室の複雑な構造の方が新鮮で、もちろんあんないい場所をつぶすなんてもったいないとは思っていたが感傷はなかった。そのころ私は地球環境が気になっていて、世界遺産が好きになっていった。今は更地になってしまった池は、私の自然への興味を開き、世界の豊かで多様な自然と私をつなげてくれた存在だった。

現在、私は大学で文化や宗教といったテーマについて勉強をしている。これに関連して思い出すのは朝の読書の時間である。これもまた朝の会

前後の十分ほどの短い時間に設けられた読書のための時間。私は百科事典の文化を扱った数ページを飽きもせず繰り返して読んで、文化や歴史というモノは楽しいのだと実感していた。将来の夢を紙粘土で表現する授業では土器を発掘している自分を作っていて、実家の収納スペースに雑に置きっぱなしのそれを見る度に自分の興味はあまり変わっていないなどと思う。十年もたつと世間の価値観が変わってきて、従来の学校のありかたを批判する意見も目にするようになった。私も手放して小学校は素晴らしいと言えなかった。学校での出来事について生涯でこれ以上ないだろうというくらい怒り狂ったこともある。だが、今の私の生き方や将来の夢についてポジティブな面で基盤を作っているのは、間違いなく小学校での六年間である。



児童作文

一年生

おはな

かわら ひな

がっこうの、ゆうぐのちかくに、おはながさいています。しろつめぐさや、こんべいとうみたいな、つぶつぶのおはな、小さくて青いろのはなど、いろいろなはながあります。わたしが、いちばんすきなおはなはこんべいとうみたいなつぶつぶのはなです。いろはピンクいろでした。かたちは、ほそながかったです。あまい、いいにおいがありました。さわったらすぐおちました。

また、おうちにもつつかえつて、かざつてみたいです。

しゃぼんだま

たなか りと

わたしは、せいかつのじゆきようでしゃぼんだまをしたのがたのしかったです。うちわに、しゃぼんだまのえきをつけて、まわしてみたら、とおくまでとんでいきました。びっくりました。たくさんとんで、おもしろかったです。

しゃぼんだまのほかには、みずでつぼうをしました。ペットボトルやマヨネーズのからにいれて、とほしました。とおくからも、みずがとんできました。みずでつぼうも、たの

しかったです。

おもほり

すまき こうた

このまえ、がっこうのはたけで、おもほりをしました。手でつちをほつて、おもほりをとりました。さいしょに二ことれて、ぜんぶで五ことれました。いろんなかたちのおもほりがありました。

めぐさんのおいもがなかなかとれないので、ほくもつたいました。いつしよにやったらとれました。

おもほむらさきいろで、とても大きくておいしかったです。

おうちで、おもほりにバターをのせてたべました。バターとおいもがトロトロみたいいろになっていました。おいしかったです。

二年生

外が大すき

あら木 かなた

ぼくが、の木小学校に入学してから二年がたちました。すきなばしよを二つしようかいます。

一つ目は、学校のうらのはたけです。の木小学校のうらのはたけには、一年生といっしょにうえたさつまいもがあります。それを見ると、気もちがほつとします。なぜかという、ぼくはさつまいもが大すきだからです。

二つ目は、グラウンドです。の木小学校のグラウンドは広くて、そこにいと、とてもあたたかくて気もちよくなるります。グラウンドを見ると、

マラソン大会や、体いく大会でがんばつたことを思い出すともあります。このように、ぼくは外がすきだとわかりました。また、ところがあたたかくなれるばしよもすきだということもわかりました。の木小学校のはたけと、グラウンドは、本当に気もちのよいばしよです。

コバンザメはすごいかわいけどね

もり山 あいり

えん足で、海ひんしぜんセンターに行きました。わたしが、魚にえさをあげようとしたら、

「ちようだいよー」

と、魚が言っているようでした。わたしがわたすと、魚がバクッと食べました。すると、あわみtainなものがブクブクと上にポワッとあがりました。するとそこに、「コバンザメがいました。」

「サメ！サメ！」と、わたしはびつくりして言いました。えさをわたすのがこわくて、ガラスにおいてそつとわたすと、

「おいしい、ありがとう！もつとくれる？」

と言っているみたいでした。わたしは「魚、こわかったけど、どんだんかよしになつてきたかも！」と、心の中を思いました。「コバンザメにぶつうにわたせるようになりました。サメはもつとほしそうにしていましたが、わたしはほかの魚も見たいので、行きました。



三年生

学校行事は学べて楽しい

藤田 奏介



ぼくは、学校行事が好きです。学校行事の一つである、秋の遠足でいろいろなことがすぐく学べました。

最初に、セーレンプラネットに行きました。ここでは、太陽の動きや月の動き、星のいろいろなが学べました。その中でも、すごいと思つたのは星のことです。理由は、カシオペア座から北きよく星の探し方を知れたし、北きよく星を中心に他の星は動いていることがわかつたからです。また、一番光っている星が一つ星、二番目に光っているのが二つ星ということがわかつたからです。

次に訪れたタケフナイフェリッジでは、は物のれきしを学ぶことができました。「こまいぬの石」で、は物などをといてもらいたいと言っている人にわたすけれど、その石でいだけ物で人を切つてほしくないという願いから、「こまいぬの石」を川においたことが知れました。また、ベルトハンマーというきかいで、鉄のかたまりを熱いかまどに入れてうすくすることや、回転した石では物をけずるのは、切れ味がよくなるよつにしているんだが知れました。

四年生で習う星のことや、福井県のことを学べて本当によかったです。

がんばることの楽しさ

奥本 結衣

わたしは、今速く走れるようにがんばっています。体育や業間マラソンでもだいぶ速く走れるようになってきました。

前までは、業間マラソンがあるとすぐおそかったので、いやでしかたなかったです。でも、三しゅうと半分だったのが、今は四しゅうと半分と一しゅうものびるなど、すごく速く走れるようになりました。すごくうれしいです。また、休みの日にお兄ちゃんといっしょに走ってみたらお兄ちゃんをぬかせたから成長したなど自分で分かりました。お兄ちゃんにもほめられうれしいです。次は、六しゅう走れるようになりたいと思っています。

前は、短きよりのほうが好きだったけれど、今は長きよりのほうが好きなので、もっと速く走れるようになりたいです。でも、短きよりも一位をとりたいです。そして、家族のみんなからほめられたいです。

マラソン大会や運動会のリレーなど、いい順位で走れるように、もっともつがんばりたいです。

四年生

見守ってくれてありがとう

内藤 朱里

バスの運転手さん、毎朝堤のバス停までおってくれて、ありがとうごさいます。昔は堤に学校があった

ので、バスは必要なかったそうです。でも、今わたしは、バス停まで歩いてそこからバスに乗って野木小学校まで行きます。バス停から遠いのでバスで学校まで送ってくれてうれしいです。雨の日や晴れて暑い日も、いつもバスで送ってくれてうれしいです。歩くスピードがおそくて、時間におくれた時にも、ずっと待っていてくれます。毎日安全に学校に行くことができます。

見守り隊の方、野木ちゅうざい所のおまわりさん、いつも見守ってくれてありがとうごさいます。見守り隊の方は、低学年下校のときも、高学年下校の時も両方、交代で見に来てくれるので、安全に帰ることができます。野木ちゅうざい所のおまわりさんは、帰りにわたしたちの下校を見に来てくれます。

民生児童委員の方、あいさつをしてくれてありがとうごさいます。学校に着いたら、児童玄関の前であいさつをしてくれるので、元気に学校生活をおくることができます。学校に着く時間がおそくなっても、待っていてくれます。雨の日も立って笑顔であいさつをしてくれます。早く学校に着く班もあるし、おそく着く班もあるのに、いつもあいさつをしてくれてうれしいです。

これからも、野木小学校に通うわたしたちを見守ってくださいね。

大変な奉仕作業

田中 玲嬢

堤には、堤を守っていくための会議があります。集落センターに一人から一人ずつ集まっています。そ

こでは、子ども会、老人会、お母さんの会、ゴミひろい、草かりなど、たくさんのお話を夜おそくまでしています。ほくたちが安心して過ごせるように考えてくれます。

ほくは、お父さんが草かりをする時に、いっしょに行ったことがあります。お父さんは大きな細長い機械を持って、公園の草をかっていました。草はほくのお腹ぐらゐまであり、大変そうでした。お父さんの他にも、堤の人、十五人くらいで、いっしょに草をかっていました。堤に住んでいるみんなや、子どもたちのために草かりをしてくれています。ほくはそれがうれしいです。ほくにはできないことだし、安心して遊べるからです。

草かりだけではなく、ゴミひろいもします。空きカンや空きビン、おかしのおくろやおかしのカス、かんだ後のガムなど、いっばいすてあります。それをひろって、きれいにしてくれます。だから、堤はいつもきれいで、過ごしやすいです。

ほくは大きくなっても堤に住みます。だから、これからは堤をきれいにするお手伝いをしていきたいです。ゴミひろいならほくにもできそうです。今までできてもらったことを、今度はほくたちがやっていきたいです。



五年生

将来の夢

河原 慶至

僕の将来の夢は二つあります。一つ目は、空手で黒帯をとり、オリンピックに出て、自分の空手道場を建てることです。理由は、今は僕は空手を習っていて、段が上の帯の人の演技を見てると、けりやつきの時に道着の音が鳴って、すごいと思ったし、オリンピックの空手を見て一つ一つ丁寧にしていて、カッコよかったからです。

自分の道場を建てる理由は、練習をしたり、皆に教えてあげたりして、みんなを黒帯にしてあげたいからです。また、自分の経験も教えてあげて自信をつけてはげましてあげたいです。今は、大会に行けないけど、練習のときは大会気分練習をして、ほんとに前に敵がいるときみたいな感覚で練習していきたいと思ひます。そして、昇級試験では、何の型が出るかわからないから全部できるようなして昇級試験に合格して、緑帯になつて、黒帯や上の帯の人に負けないうらい練習して、道着の音が出るようになりたいです。型で回るとき体がブレないように練習したり前屈立ちや、こうくつ立ちの体勢を低くしたりしたいです。前屈立ちの足の幅を直される時があるので、前屈立ちができていないと型の時、体がブレるので練習して先生に上手いとかづしてないと言ってもらえるように練習していきたいです。これからも

空手を続けて、黒帯になって日本大会で結果を残して中学生や高校生、大人になったらオリンピックにでて優勝したいです。

二つ目の夢は、駅のピアノで「エリーゼのために」を弾いたり、音符を読まなくても耳コピでピアノをひいたりできるようになるということです。そのため今ピアノの練習を頑張っています。最初はドレミが分からなかったけど、頑張って覚えたので、今は「エリーゼのために」を弾けるように頑張っています。ピアノをやった理由は、親戚がピアノを習っていて「エリーゼのために」を弾いていたのでやりはじめました。いつかは、耳コピで自分の好きな曲を弾きたいです。

この二つの夢がかなえられるようにがんばっていききたいです。



夢を追って

橋本 亜侑

私は将来、図書館司書になりたいです。理由は、本が大好きで、私みたいに本が好きな人が増えてほしいからです。

私はよく近くの図書館に行きます。毎週好きな本をたくさん借りて家に帰ります。そうしているうちに、もともと本が好きだった私はもっと本が好きになりました。だから図書館司書になれば、私みたいに本が好きな人が、出てくると思うからです。そうになると、その人から、いろんな人へ良さを伝えて本好きが増えるこ

ともあると思います。図書館司書になったら、本に関わる楽しいイベントを考えて、たくさんの人に本に興味を持ってもらいたいです。

私は今、図書館司書に向けて少しずつ努力しています。例えば、図書館司書の仕事を調べてノートにまとめたり、図書館司書は本を選ぶのも仕事だから、本をたくさん読んで気に入った本を選んだり、他には、図書館に行くとき、司書の人はパソコンを使っていてから、パソコンを上手に使うなどの努力をしています。今はしてないけどよく考えてみれば、図書館司書の人は、来てくれた人と本の場所のことや、おすすめの本などについて話すことがあるから、私も人と話すときに言葉づかいや、笑顔に気を付けて接したり、学校や、どこかの建物で本の読み聞かせをする機会があるから今のうちに弟に本の読み聞かせをしたりしたいです。

でも、図書館司書への道のりを調べてみると、試験が三つもあり、いろいろ資格をとってやっとなれる仕事だから「えっ大変すぎ」と思ったことがあります。でも、やっぱり本が好きな気持ちは変わりません。大人になって、新しいことが好きになり、別の夢を目指すかもしれない。でも今は、本好きに変わりはなく図書館司書を目指しています。

本はすごいと思います。わたしはどんな本でも読む前と読んだ後では考え方が変わります。そして自然とその本によって楽しい気持ちや悲しい気持ちになります。そんな「本」に関わる、人を笑顔にできる図書館司書に自信をもつてなりたいです。

六年生 独楽吟

たのしみは

サッカーの試合

人を交わして ゴールしたとき

井畑 貴人

たのしみは

疲れた時に 目をつむり

好きな人形 抱いて寝るとき

大江 咲良

たのしみは

気づいているけど さようなら

先生忘れて 宿題へるとき

奥本 望瑠

たのしみは

学校帰りに 待ち遠しい

ペットの魚に えさあげるとき

栗原 一花

たのしみは

ドッジボールで 業間に

みんな一緒に 当てあうとき

清水 大椰

たのしみは

炎天下の中 クロールで

水につかって 泳ぎ切るとき

竹村 旺己

たのしみは

いいことある時 アイスクリーム

当たり出ると 食べてみるとき

田中 輝琉

たのしみは

アイス当たって 大喜び

すぐにもらいに お店に行くとき

塚本 咲依

たのしみは

「きょうもやるぞ」と卓球し

豪快なフォア 決めたとき

新田 紗矢

たのしみは

難問クイズ 考えて

難しいけど おおていたとき

橋本 真乃介

たのしみは

玄関あけると 駆けつける

犬と一緒に 過ごしているとき

藤田 彩乃



今年度の野木小学校の活動

写生



交通安全教室



入学式



自然教室



着衣泳



プール掃除



秋季遠足(1・2年生)



体育大会



稲刈り



絵画教室



栃木県野木町立野木小学校とのオンライン交流(4年生)



秋季遠足(3・4・5年生)



★★★ 6年生 思い出のシーン ★★★



修学旅行（東尋坊にて撮影）



陸上チャレンジ大会



朝ごはん教室

編集後記

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。大変お待たせいたしました。今年度の母校の様子や同窓会員の近況をお知らせする同窓会報三十二号が出来上がりましたので、お届けいたします。

今年度も、新型コロナウイルスの影響を受け、東京オリンピックも無観客で行われるなど、まだまだ生活等が制限される一年となりました。そのような状況の中、今年も原稿執筆をお願いした皆様方には、お忙しい中にもかかわらず、快くお引き受けいただきました。おかげさまで、大変内容のある会報に仕上がり、心から感謝申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様の益々のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。

福井県三方上中郡若狭町武生十五一七一

野木小学校同窓会事務局